

## 第1回「東海財界倶楽部」例会開催

# 税理士尾村辰夫氏を招いて 東急ホテルで開催

平成二十六年二月四日、第一回「東海財界倶楽部」例会が開催された。同会は東海地方で活躍する経営者を中心とした異業種交流会。当日は税理士・尾村辰夫氏による講演、賀詞名刺交換会、中部財界フォーラム社スタッフによる挨拶などが行われた。

平成二十六年二月四日、名古屋東急ホテル四階「栄の間」にて、第一回「東海財界倶楽部」例会が開催された。

「東海財界倶楽部」は、愛知県・岐阜県・三重県に拠点を有するトップ経営者を中心とした異業種交流会。経営者同士の知識・情報

の交換および意識向上の機会を設けることを目的とする。

同会初の例会となる当日は、午後六時から受付を開始。正会員・準会員を含め企業を代表する経営者ら約三〇名が次々と集まった。

開会にあたり、中部財界フォーラム社塚本隆代表取締役が挨拶。

「月刊『東海財界』を軌道に乗せようと必死にやっつけてきた。それが認知されつつある手ごたえを感じ、こうして第一回『東海財界倶楽部』例会を行うことができるのも皆様方のお蔭。会を通じて少しでも皆様方の人脈に役立てるよう運営していきたい」と述べた。

講演を行う尾村辰夫氏

午後六時四十五分からの第一部では、元大垣税務署長・前一宮税務署長の税理士・尾村辰夫氏を講師に迎え、演

題「ワニの口 ―バブル以降の日本経済―」とする講演を行った。「ワニの口」とは、高齢化に伴い増大する社会保障給付費と、横ばい状態にある社会保険料収入の開きを表したもので、差額は税金で負担される。尾村氏は過去の経済政策による税収の推移と今後の見通し、制度の問題点などを広く解説。守秘義務に配慮しつつ、税務署職員時代の自動車・機械関連企業に対して行った調査などの経験を語った。

午後七時四十分からの第二部は、中日本興業服部徹代表取締役社長による乾杯の音頭でスタート。晚餐を交えた賀詞名刺交換会および親睦会が和やかに行われた。

会の中頃には、中部財界フォーラム社社員・スタッフ一同が集まり、一言ずつ挨拶。それぞれの役割を述べた上で、引き続きの支援を願った。

最後は緑ヶ丘カンツリークラブなどを手掛ける松栄商事阿部博代表取締役社長による一本締めにより、恙なく閉幕となった。

